



散歩道

第11号

加西市人権啓発だより
加西市ふるさと創造部人権推進課
加西市北条町横尾 1000 番地
☎ 0790-42-8727

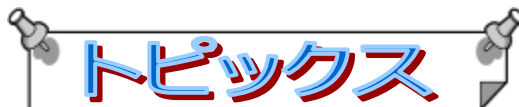
12月4日(水)～10日(火)は人権週間です

この1週間を「第71回人権週間」と定め、世界人権宣言の意義を訴えるとともに人権尊重思想の更なる普及高揚を図る活動を行います。

今年も、いじめや児童虐待などにより子どもが命を落とすといった痛ましい事案が後を絶たない状態です。またインターネット上では他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したりする事案があります。そのほか、企業等では長時間労働による過労死、各種ハラスメント、嫌がらせ、不当な差別といった問題が発生しています。

さらに、「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟の判決受入れに当たっての内閣総理大臣談話」の趣旨を踏まえ、ハンセン病患者・回復者やその家族がおかれていた境遇を踏まえた人権啓発活動の強化に取り組んでいます。

皆さんも「思いやりの心」や「かけがえのない命」について考えてみましょう。



人権啓発への感謝状贈呈

8月18日(日)「人権文化をすすめる市民のつどい」に於いて

加西市人権教育協議会前会長岩田勝氏は、委員として平成17年5月より活動を始められ、14年間の長きにわたり人権啓発活動に活躍されました。その間、平成23年5月から令和元年5月は加西市人権教育協議会会長として、また、平成27年5月から令和元年5月は、東播磨人権教育研究協議会会長を兼務され、平成28年6月からは兵庫県人権教育研究協議会副会長を兼務されました。その功績をたたえて、市長感謝状が贈呈されました。

パラトライアスロン開催

9月29日(日)実施

加西市では2011年よりトライアスロン大会を開催しています。昨年は新たにパラトライアスロン(障害者アスリート対象)を公開競技として実施し、今年は、パラトライアスロンの部門が一般公募となりました。普段は目にすることのないタンデムバイク等を駆使して、全力で競技する選手たちを応援することができました。ちなみに、兵庫県はタンデムバイクの公道走行を認めている数少ない自治体だそうです。

長島愛生園訪問

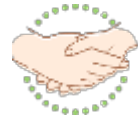
11月13日(水)実施

加西市では、ハンセン病を理解し、差別・偏見の解消を願い、同じ過ちを二度と繰り返さないという思いを込めて、平成17年より長島愛生園訪問を実施しています。

加西市出身の入所者であった谷川秋夫氏(故人)の詠まれた短歌が刻まれている丸山公園内設置の歌碑を最初に見学しました。そして、現地愛生園では、歴史館見学の後、ハンセン病回復者のお話を聞き、悲愴な思いをされながらも、より良く生きようとされている姿に感動しました。その後、収容棧橋、収容所、監房跡等を見学しました。



主な人権啓発事業



★人権フィールドワーク <生野銀山, 教正寺> 10月18日(金)実施

史跡生野銀山では、案内ガイドとともに金香瀬坑道など約1kmの坑道内コースや資料館を巡り、かつて国内有数の大鉱山として名を馳せた銀山の隆盛と坑内労働者の歴史について学びました。教正寺では、地元市川町において差別撤廃に尽力した清水喜市氏の活動などについて住職より話をして頂きました。

★映画上映会 「しゃぼん玉」 12月7日(土) アスティアかさい3F多目的ホール

※午前10時・午後2時の2回上映 先着90名

原作は、直木賞作家・乃南アサのベストセラー小説「しゃぼん玉」です。親の愛を知らずに育ち、通り魔や強盗傷害を繰り返す無軌道な若者伊豆見翔人(林遣都)。誤って人を刺してしまった彼が、逃亡途中に老婆・スマ(市原悦子)を助けたことがきっかけで、彼女の家に居座ってしまう。初めは金を盗んで逃げるつもりだったが、スマを始め村の人々とのふれあいによって人生をやり直せるのではと変化していくストーリーになっています。

身近な人権問題

人権にかかわる身近な話題を提供します。

外国人の人権問題

国際化の時代を迎えて様々な国の人々との交流が予想以上の速さで進んでいます。オリンピック・パラリンピックなど世界規模のイベントを控え、さらに訪日客が増えることが予想されます。また、外国人材の受け入れを拡大するための「改正出入国管理法」が今年度4月より施行され、国は5年間で最大34万人の労働者の受け入れを想定しています。

しかし、在留外国人の増加と共に、近年、外国人をめぐるいろいろな人権問題が発生しています。例えば、外国人が日本語をあまり理解出来ないことにつけ込み、劣悪な条件のもとで働かせたり、外国人であることを理由にアパートやマンションへの入居を拒否したり、一部の外国人の不法就労や犯罪などが報じられると、そのことだけに惑わされて、彼らの国の全ての人たちを見下したり、偏見を持って接したりすることもあります。また、スマートフォンの急速な普及により、SNS内での中傷などの社会問題も年々深刻化しています。

世界中の国や地域には、歴史や風土、慣習や思想が異なることから、それぞれ異なった文化、宗教、言語などがあります。その違いに気づかず、自分を基準にして相手に何かを求めても、相容れないことは目に見えています。

外国人に対する人権侵害を無くすためには、自分と異なる文化・宗教・言語などを誰もが寛容に受け止め、相違を認め合うことが必要です。そして、日本人と外国人が相互に理解、尊重しながら、地域への参画と協働を目指して多文化共生社会を実現していきたいものです。

※人権啓発にかかわるアンケート結果等は、加西市ホームページに掲載しています。

(トップページ→「暮らす」→「安全安心のまちづくり」の「人権教育・啓発活動」→「啓発活動」へ)

※表題「散歩道」という名称は、平成13(2001)年度まで人権啓発冊子で使用されていました。